

令和6年度 第1回 鏡野町立中学校部活動地域連携検討委員会（概要）

日時 令和6年6月13日（木）

18:30～20:20

1 昨年度までの取組の確認、中学校部活動の現状把握並びに国・県の動向

委員の変更もあり、事務局から、昨年度までの取組とその成果、課題について、また中学校から本年度の部活動加入状況や、顧問の配置に係る説明を行った。部員数の偏りが大きいことや教員数の減少により、複数顧問の配置が難しくなった状況が報告された。委員からは、「部活動指導員」の公募に関する質問があり、現在、中学校の意向を聞きながら、マッチングを進め、指導体制を整えていることを説明した。

また、事務局の3名が研修を受けた、6月6日開催の「部活動の地域移行に向けた実証事業第1回合同連絡会」の報告を行い、本年度、県内で6つの市町村が実証事業を受けていることや、地域クラブの指導員への体罰・ハラスメント研修等の必要性、勝負にこだわる競技性のある部活動の受け皿づくりだけではない、楽しむことに重きを置いた受け皿づくりの取組の様子が報告されたことを説明した。

2 令和6年度の取組について

上記の説明で現状を把握した上で、今年度の取組について協議した。

1点目は、「指導者の確保」をいかに進めるかということで、事務局から「①スポーツ少年団、協会、文化連盟等、町の各団体から再度、指導員候補を募っていただく。②現在活動している部活動指導員や外部指導者の方々から輪を広めていただく。③公的機関や企業などで働くスポーツや文化体験経験者にお願いする。」といった3つの取組の方向をもとに、委員から意見を求めた。各種団体から、再度、おろしていきたいという意見もいただいたが、「広報が足りない。地域の方々や企業などへ積極的にお知らせし、理解と協力をお願いする必要がある。」といった意見や「ホームページを工夫し、わかりやすい情報発信に努めるべきだ。」といった広報不足を指摘する意見が多く出され、今後、様々な方法で広報に努めることを伝えた。

また、検討委員会としてめざすべき方向性が不明瞭で、ゴールを見据えた話し合いが必要であるといった意見もあり、今後、鏡野町の部活動地域移行のロードマップを作り、検討していくことを決めた。

2点目に、懸案である「運営団体」の設置に向け、事務局の中の生涯学習課を中心に検討していくこと、そうした中で、地域移行を総括的に進めるコーディネーターの配置に取り組みたい旨の提案を了承し、次回にむけ、取組を進めることにした。